

# 教育経済建設常任委員会行政視察報告書

中 島 真 弓

## ○埼玉県鴻巣市

### 学力向上の取組み及びICTの効果的な活用について

#### 【所見】

コロナ禍の影響で前倒しとなったGIGAスクール構想により、本市の小中学校も一人一台のタブレット端末が配布されたが、鴻巣市ではPC環境を整備すると同時に、システムをフルクラウド化して、学校内のみならず、自宅でもICTを活用しながら学習できる環境を整えた。ICTを文房具のように活用できる環境を提供することが目的としており、強固なセキュリティ基盤を構築したフルクラウド化の最先端のICT環境については予算の課題は多いが、子供たちの学びをはじめ、教員の働き方改革の観点からも、本市の学校現場においてもとても必要な整備といえる。

教育情報化の推進体制の整備では、授業や公務において日常的にICT機器が活用できる環境の整備と教育現場において先端技術を活用することで新しい時代で活躍するための基盤となる力の習得と教育の質の向上を目指しており、市教育委員会が司令塔となり策定されたICT教育計画や様々な仕組みづくりに取り組む体制は大いに参考となるものであった。特に本市の学校現場においては、ICT活用指導力は学校毎に格差が生じてしまっており、早急に解決すべき課題の一つである。鴻巣市では「学校教育情報化に係る進捗状況整理シート」を活用し実態を調査・把握していた。これは自校の教育の情報化を整理しPDCAの着実な実施に資するため、また全教員が振り返りに参画し、毎月の利活用実績等、利活用促進にあたって必要なデータを随時各校へ情報提供を行い、できるだけ一定のラインに到達できるよう学校をサポートしており、本市としても早急に取り組んで欲しいと考える。こうした取り組みが、ICT教育に対する評価へ繋がり、目標達成に向けた課題整理と取り組み内容の見直し及び改善へ繋がり、ICT教育の計画の推進にはとても重要なことであると感じた。

ICTの効果的な活用は、教員の働き方改革を推進し子どもたちと向き合う時間の確保にも繋がり、さらには教員が元気に働く魅力ある職場

づくりへも繋がる。限られた義務教育9年間の中で、いかに本市の児童生徒が受ける教育の質の確保ができ向上できるかは、教育現場の体制とやる気が重要であると改めて感じた。今回学んだことをしっかり活かしていきたい。

## ○神奈川県小田原市

### まちのコイン「おだちん」事業について

#### 【所見】

地域コミュニティ通貨を活用することで、地域や人との繋がりが深まり、新たなリピーター層の獲得や地域内外の連携が生まれていた。SDGs体感事業として、SDGsの体感の先にある課題解決への気づきや人と人との繋がることによって課題解決のすそ野を広げるための第一歩として展開しているが、市民が地域の様々なイベントを企画し地域のために精力的に活動をされる原動力は、地域の人が地域の魅力を感じ地域愛を持っているからこそだと感じ、またそうした意識を持っていることがまちの活性化にとってもとても重要である。

地域通貨は特定の地域やコミュニティ内だけで流通、利用できる通貨であるが、今回の体感事業では獲得したポイント（おだちん）は法定通貨で価格化、表現できるものは取り扱ってなく、協力店の物を売る・買うだけではできない体験、お金では体験できない付加価値を創出しているところに驚いた。協力店側は、その体験を通してリピーターへと繋げ経済的にも好循環を生んでおり、SDGsの取り組みから地域愛を育み、市内経済の活性化へ繋げる仕組みづくりは非常に興味深かった。デジタル地域通貨のアプリの運用については、予算的な課題は大きいですが、市単独ではなく県や両毛地域で連携して取り組み、地域の魅力を体験しながら経済活性化へ繋げることも必要であると感じた。今回の視察で学んだことをぜひ参考にしていきたい。

